

## 特集 私の旅行記

### ★タイ・マレーシア旅行

北ブロック 宍戸 真知子



シラチャのピアノ教室の前で

2月の初めから二週間、夫のゴルフ仲間15人程と恒例の旅行に同行してきました。

最初の10日間はバンコクから車で一時間半のシラチャという日本人街です。治安も良く昼間は一人で散策でき、気温は26℃位で日本の冬を忘れさせてくれました。

ゴルフをしない私は、街歩きや買い物・マッサージ・エステ等を楽しみました。

大きなホテルは沢山あり、デパート・モールも数軒。裏通りには出店もたくさん出ていました。人々は大らかで表情が明るく生き生きしているのが印象的でした。これから発展してゆく未来に希望を持っているからでしょうか。

時々仲間と夕食を共にしましたが、食べ物は辛い物・油ものが多く辛い物が苦手な私も全般的には美味しくいただきました。

又、夫の友人がやっている屋台にも行きましたが、彼らは夜の涼しい風に吹かれて酒を飲み交わし楽しそうに会話していました。ホステスのいるバーも沢山あり、中にはカラオケの出来るところもありました。全体的に見てもタイでは日本よりも安く遊ぶことが出来ました。

後の5日間は、マレーシアのマラッカに行きました。ポルトガル等の植民地だったところで、世界遺産のザビエル教会・戦の砦跡やスルタンの屋敷があり、異国情緒を味わってきました。私にとって違う国の人々の文化や習慣に触れる事はとても新鮮でしたし、新しい発見がいくつもありました。世界は広いですし私の知らないこともまだまだ多いなと強く感じました。機会があれば又違う国に行ってみたいと思っています。

### ★青森紀行

湘南ブロック 金井 明



弘前城

元号が平成から令和にかわり、史上初の10連休が実現した。その初日の4月27日から28日にかけて青森県を訪ねました。きっかけは青森にいる私の書道仲間が開催する「青森地区連合書道展」に招待されたので、その見学を兼ねて青森の旅行を計画しました。

出発当初は、現地情報によると「雪」との事でしたが朝一番の飛行機で羽田を発ちました。青森空港に到着すると、雪もやみ天気は回復、地元仲間の出迎えを受けバスで市内へ。

まず、ねぶた会館で去年の優秀作品を見学、その迫力に圧倒された。会場で行われた和太鼓のショーもまた迫力満点でした。

午後、一同は青森地区連合書道展をじっくりと見学。仲間たちの力作に感動。

夜は祝賀会が催され本場の津軽三味線の演奏に感動。ホテルに戻り二次会、大いに会話が弾んだ。

翌日はバスで弘前へ。昨日とは異なり日本晴れ、車窓から山頂に雪の冠を被った岩木山の雄姿に感動し弘前城へ。日本一の桜や堀に浮かぶ花筏、石垣補修中のため移動した弘前城を見学。夕方青森に戻り帰路に。短い日程であったが意義ある旅となりました。



岩木山

## ★ ♪石の音色に魅せられて♪ ベトナムの旅

西ブロック 内田 絵美子



木琴ならぬ石琴？

私のクラスメートで変わり者のT君。ベトナム南部「ニャチャン」というリゾート地にホテルを買い、まるで素人なのに営業開始。彼が企画した「ベトナム縦断 10 日間の旅」に参加し、旅行社のツアーでは味わえない、面白体験いっぱいの旅をしました。その一つ、彼のホテルに3泊した時の話です。

バスで1時間余りの山奥にある「ヤングベイ」という観光地へ。水着で入るプールみたいな大きい露天温泉があり、ワニ園、クマ園、水遊び出来るきれいな川、鶏のレース等が行われたりと、雑多な感じの観光施設。

簡素な舞台で賑やかな山岳民族のショーが終わり、座長の男性が退場する際「舞台の楽器、弾きたい人は自由に弾いていいよ！」

誰も弾こうとしないので、私が挑戦することに。平らな自然の石を組み合わせた「木琴」風な楽器が面白そうなので、これを！良く響くきれいな石の音、でもドレミファ順に並んでない。一つずつ叩きながら音をさぐり、ようやく簡単な1曲を弾けるようになりました。

私の弾く音に合わせて、友人たちが「咲いた、咲いた、チューリップの花が♪」と歌い出すと、さっき引っ込んだ座長が慌てて舞台に戻って来て「何という曲？」

「日本の歌で“チューリップ”」と答えると、「ここ、日本人が来ないから俺、日本の歌を一つも知らないんだ。今度日本人が来たら、これ弾いて歓迎するよ！」。山岳民族の言葉なので分からないはずだけど、身振り手振りで言ってる意味が理解できた不思議な体験です。

何度か弾いてみて、覚えることが出来た彼は「これでいい？」[OK! ]という私の返事に、満足そうな顔つきで控室に戻って行きました。あれから5年たったけど、日本人観光客は来たかしら？「チューリップ」の曲で歓迎して貰えたかしら？と、時々思い出します



## ★ 白夜のクルーズ

中央ブロック 石井 秀子



シャンパンタワーの前でキャプテンと

6年前、初めてのクルーズに行ってきました。アムステルダムまで空路で飛び9日間の船旅。

MSC ポエジア (イタリア船) 13万トン。

乗客は3,000人 日本人は50人程。北欧の白夜は一日中、太陽が沈まない…

こんな経験がしたくて、夏至に合わせ乗船。ロシアのサンクトペテルブルク港に着きデッキから外が見えるよう部屋のカーテンは開けたままにしました。

夜中、目を覚ますと新聞が読める位、明るい！何度も目を覚まし朝まで、ず〜つと明るい！本当に白夜だ。

その後、スウェーデン、エストニア、ドイツ、デンマークとまわりました。

船の中は遊びに溢れ、食事も美味しく楽しい時間が流

れました。明るい太陽の下、ビートのきいた音楽に乗ってダンス。プールではカラフルな水着で泳いでいます。自分の体形など気にしません。堂々と巨体の日光浴。でも、ディナーでのフォーマルな装い。素晴らしくて映画のシーンを見ているようでした。

色々な国の方とお話ししました。南ア連邦、ドイツ、カンボジア、イギリス、フランス、アメリカ、韓国、ギリシャ。

言葉は上手ではありません。でも、お話をしたい気持ちがいっぱい！私の英語は心臓の強さと好奇心。見知らぬ国を海から訪ね、飛行機とは違うヨーロッパの日常を体験しました。

## ★ポルトガル旅行

湘南ブロック 原園 信夫

平成31年1月26日から8日間、旅行社の企画旅行でポルトガルに行きました。ヨーロッパは世界遺産めぐりがメインで行きます。今回選んだポルトガルは最近人気急上昇と聞きました。1543年日本に初めてやってきた西洋人がポルトガル人でした。

ポルトガルを語源とし日本語になったものは沢山あります。タバコ、てんぷら、おんぶ、コップ、ブランコ、パン、合羽、カステラなど。金平糖もそうで、添乗員に案内されてコインブラのPasteria Briosaというお店で一袋1.5ユーロのものをお土産にたくさん仕入れました。

旅行先で、民族音楽を聴く機会があると聴きに行きます。ファドと呼ばれるポルトガルの音楽も食事をしながら堪能しました。

ポルトガルから少し足を延ばして、北スペインの世界遺産であるサンチャゴ・デ・コンポステーラにも訪問しました。巡礼の道にある歓喜の丘から巡礼者が見たという銅像の所から大聖堂を見て、オプラドイロ広場にある巡礼の最終点を示す刻印を見て、大聖堂の中を約1時間見学しました。

ユーラシア大陸最西端のロカ岬へも訪問してきました。

ポルトガルは、食べ物も日本人に合い、ビールは昼食時、夕食時に注文、ヴィーノ・ヴェルデ（微発砲でアルコール度数も少し弱い）とワインも夕食のたびに注文し、大変おいしくいただきました。

世界遺産を見る、歴史を学ぶ、民族料理を食べる、おいしいビールやワインを飲む、民族音楽に触れるのが旅の楽しみ方だと思います。



巡礼の終点



ロカ岬先端

## ★青いケシを求めて

西ブロック 高橋 裕

青いケシの観賞スポットとして、東日本では下伊那大鹿村中村農園と白馬五竜高山植物園や日光上三依水生植物園などが挙げられます。

それぞれに一長一短があり、何所に何月何日頃にどうやって行くか迷います。他の高山植物も観賞できるのが五竜で、白馬温泉等に宿泊して白馬八方尾根や梅池のケシ観賞トレッキングツアーが魅力的です。

神奈川から電車を乗り継いで日帰りできるのが上三依です。様々な植物を手近に観賞できて、鬼怒川か湯西川で一泊するケシ鑑賞ツアーコースが見つからない。

大鹿村は新宿西口からの日帰りツアーがありますが、写真のようにケシは畑栽培で味気ない。今年の6月に私一人で大鹿村ツアーに参加しました。ガイドさん同行で24名乗車のマイクロバスは新宿を朝7時半出発して3時間で中央道松川I.C.、次いで県道59号松川インター大鹿線を40分走り農園に到着です。県道と言っても目的地近くになると手入れが行き届いていないヒノキ林をくねくねと昇る細い山道です。

帰路に、近くの大池湿原を散策してクリンソウなど山野草の観賞ができました。途中休憩した道の駅大鹿では、国産の岩塩ならぬ温泉水から作った山塩を買いました。

車中で「これは食品なのかな？それとも温泉の素なのかな？」気になったので袋を見ると食塩と記されていました。

「来年は上三依に温泉一泊で行こうね」、山塩を振りかけたサラダを肴に帰宅後の会話でした。



大鹿村の青いケシ

★オランダ旅行記 (平成13年 オランダ旅行記より) 中央ブロック 荒井 準幸



訪問先のオランダは世界でNPOの最先端を行き併せて今日のユーロ圏で唯一好況を維持していると聞いている。それに何よりも日本の介護保険制度の基本になったと言われる高齢者・少子化対策に成功している国です。共存・共生を基礎に据えたNGO・NPOの活動を探るのが今度の旅行のねらいでした。

6月23日から8日間の旅でしたが、福祉施設の見学や市議会福祉関係者やNPOの方々と意見交換の機会も得られ、先進の現場を体験することができました。オランダは面積が日本の九州とほぼ同じで、人口が1,560万人だそうです。標高の最高が50mと

いう真っ平らな国で町から町へ移動する間には広大な綿羊と牛の草地在り、また、畝が1kmもあるかと思うジャガイモ畑と麦畑が広がって居り、広大な農地と豊かな緑が印象的でした。

日本の介護保険はドイツを参考にしていると言われますが、実はドイツはオランダを参考にしていたと聞かされました。それなら猶の事オランダを見る価値があると感じました。オランダは1968年に社会保険が導入され、施設介護が社会保険でカバーされるようになり、そして高齢者住宅の建設や各種サポートサービスが提供されたそうです。

この社会保険成立後も試行錯誤を繰り返し“揺りかごから墓場まで”またある時は“医療・介護に競争原理導入”など各種の福祉施策を経験して成功につなげてきたわけです。今のオランダの「健康福祉スポーツ省」が呼び掛けているのは「高齢者の自立を促し、高齢者が社会に溶け込んだ社会を形成しよう」という事でした。日本もこれから多くの経験を重ねオランダに追いついてゆくことでしょう。



★母娘の珍道中

北ブロック 吉武 道子



かに(可児)駅で蟹さんポーズ!

7月6日、我が家族7人は羽田→大分をひとつ飛び、夫の一周忌の法要をする為です。総勢15名、ささやかな中にも3人の住職の読経は胸に沁みました。夜はホテルで家族水入らずで夫を、父を偲びました。未だ夫の事を吹っきれない私を知る娘は、56年対1年だからね…と。

翌朝から珍道中の始まり! 皆さん、JRの乗車券に携帯電話の大きさのものがあることを知っていますか。これが珍の主役。中津駅で機械に通らない。アレ、どうして? 駅員さん、珍しい切符、窓口でどうぞ! ですって。今後も乗降の度に窓口でお願い、と云われて二度びっくり。感想 面倒くさそー!

中津・小倉・名古屋と通過証拠のスタンプが押されていく。娘は何だか楽しそうな気配。多治見経由太田線可児駅下車。ここで珍事が…。駅員さん回収切符と思い、持って行きそうな

ので大慌て「その切符まだ要ります」と私。戻って来た駅員さん、「遠方よりよろこそ可児へお越し頂きましてありがとうございます。良い旅をして下さい」と丁寧。誠実な言葉を貰い、グーとききました。

2人の感想、ローカルっていいね。翌朝可児・美濃太田・高山へと進み、この車中でも私達の無知ぶりが…。特急券無しで特急に乗り、社内で支払い。バッグの中に切符が見つかり、払い戻して貰いました。車掌さん「車内で見つかって良かったですね。降りてしまったら戻せないのですよ」と、優しい。この後高山・白川郷を観光、富山・上野と帰路。合計スタンプは12~3個となり、娘はこの切符を貰って帰りました。ローカル線の旅は楽しいですね